

平成30年度 小学校教職員を対象とする環境教育研修会 実施報告

「やってみよう！環境学習プログラム」

第4回「もったいないライフ一日体験」（テーマ：生活）

- 実施日時 平成30年8月7日（火） 10時00分～16時15分
- 受講者数 15名（教員11名、研修・聴講者4名）
- 実施場所 都立農業高校神代農場（調布市深大寺南町）
- 実施内容

【午前】

1. 事務連絡・開講挨拶等

- ・事務局から受講上の注意、全体スケジュール等の説明
- ・環境局総務部環境政策課から開講挨拶等

2. ゲストティーチャーからの講義・体験

（ゲストティーチャー：都立農業高等学校 田口喜朗教諭）

（1）神代農場での自然観察

- ・神代農場の豊富な湧水を利用した稲作やワサビ栽培、ニジマスの養殖、雑木林や竹林、10万年前の地層などの説明。里山での暮らしを知り、生物多様性や無駄のない生活を考えるきっかけとする。



(2) 道具を使う実習

- ・釘を打つ、木をのこぎりで切る、杭を打つ、薪を割るなど、それぞれの作業に合った道具を使った実習。



【午後】

3. 環境学習プログラム「昔の暮らしから学ぶ」の紹介及び実習

(講師：NPO 法人環境学習研究会理事長 谷村春樹氏)

(1) 環境学習のポイント ～体験の重要性・森は命のみなもと～

- ・環境学習は、命について考え、学ぶ学習である。子供は実際に物事を体験する中で、理解し、気づき、学んで成長する。

- ・「森は命のみなもと」である。体験を通して、自然に生かされていることを感じ、自然を大切にするようになる。
- ・どんな教科でも環境学習につながる。今回の研修会も食やごみ、自然、エネルギーなど様々な入口があるが、出口は一緒である。

(2) 昔の暮らしから学ぶポイント解説

- ・体験することが大切なので、“昔の暮らしの疑似体験ができる場所”“昔の暮らしを知っている人”を探して体験学習をする。
- ・昔の暮らしの中に、今に生かせることがあれば、生かす工夫を考える。

(3) 「昔の暮らしから学ぶ」プログラム紹介と体験

昔と現在の道具や暮らし方の違いを比べることによって、子供たちの感性を磨き、「もったいない」や「道具の使い方」を工夫することによって安全でより環境に優しい生活を考える力を育てるプログラム。

- ・昔と今の生活用品の比較（おひつ、湯たんぽ、風呂敷など）
- ・里山の活用
- ・桜の枝を使ったエンピツストラップ作り体験



(4) まとめ(質疑応答及び受講者同士の情報交換)

この日の研修を通じて、気づいたこと、感じたこと、授業での活用方法や各学校で実施した関連事例等について、グループごとに発表し、受講者で情報を共有。



(発表意見の例)

- ・子供が“もったいない”という言葉自体を使っていない。大人は、お金になるのにもったいないという意味で使っていることが多い。
- ・木の鉛筆作りで、講師が落ちた桜の枝について、命が終わったものを使わしてもらうとおっしゃっていて、人が命を吹き込んで道具として使うのだと感じた。
- ・今の子供たちは自然から切り離されている。自然と触れ合い、自然を取り入れていければと思う。
- ・どの教科でも環境学習を取り入れられるのではないと思った

4. 事務連絡、アンケート記入等(事務局)

アンケート提出後、解散